

熱のVoice ②

エキスパートチーム編

(株)北海道熱供給公社

営業部 技術グループ

グループを代表して、須藤氏にインタビュー



左から:上マネージャー、前井係長、須藤課長補佐、村田係長、佐藤課長

「50年、100年後も、 札幌都心部を支える重要なインフラとして機能するために」

グループの主な業務目標および内容を教えてください。

須藤 営業部技術グループの一番大きな業務目標は、熱の安定供給です。そのために、主に供給設備である導管と付帯設備の保全計画と維持管理、修繕・新設工事の計画と施工管理、安全管理、予算管理等に関わる業務全般を担当しています。

業務目標のために努力されていることはありますか。

須藤 当社では、高温水の供給開始から約45年が経過していますので、今後も安定供給を続けていくために、総延長約33kmの埋設導管（コンジット管）の計画的な修繕を進めています。札幌は、降雪によって冬期に掘削規制がかかる場所です。それを見越して年間スケジュールをつくるとともに、工事に遅れを出さない工程管理に努めています。また、約120カ所あるマンホールの内部施設の点検パトロールも欠かせない維持管理業務で、日々の点検を大事にし

ています。現在、一部必要と認められる修繕工事も順次行なっています。

これらの工事は、札幌都心部の交通量が多い街なかでの作業となるので、交通規制をして、夜間工事を実施しています。常に市民の安全確保に配慮して工事を行っています。

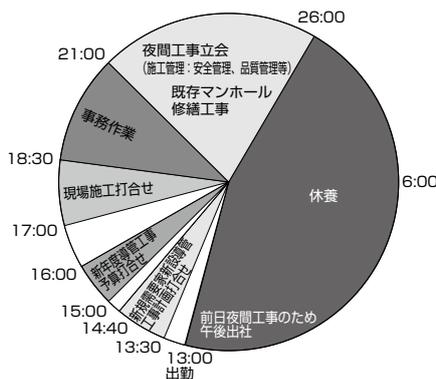
お仕事の楽しさ、やりがいなどを伺わせて下さい。

須藤 私は小さな頃からモノづくりが好きで、特に建物が形になっていくのを目で見てるのが楽しかったので、大学は建築学科に進みました。今は北海道の中心地、札幌の都心部

というエリアで、43kmの延長距離を持つ導管の工事を担当していて、それができていく過程に携わることによりやりがいを感じています。ただ、少し本音を言いますと、せっかく道路を開削して、導管ができていくところが見えているのに、最後はアスファルトで見えなくなってしまうのが、少し残念だなと思っています。

今後の目標を教えてください。

須藤 熱供給事業を一般の方々にもっとご理解いただくと共に、50年、100年後も、札幌都心部の機能を支える重要なインフラとして、安定した熱供給を継続していくことが目標です。そのためにも、個人的には、導管の工事や管理の知識や技術をさらに深めていきたいと考えています。



メンバーの1日の業務スケジュール例 (3月某日)

須藤恵理子氏 (Sudo Eriko) 略歴

1991年北海道工業大学工学部建築学科卒業、建設会社入社。2005年(株)北海道熱供給公社入社。営業部計画グループを経て、現在、営業部技術グループ課長補佐。一級建築施工管理技士、一級管工事施工管理技士。海外旅行が趣味。

(取材: 中田 貞志 広報委員)